

国際通信 8 号～参加型授業(バーチャルウォーター)の実施について

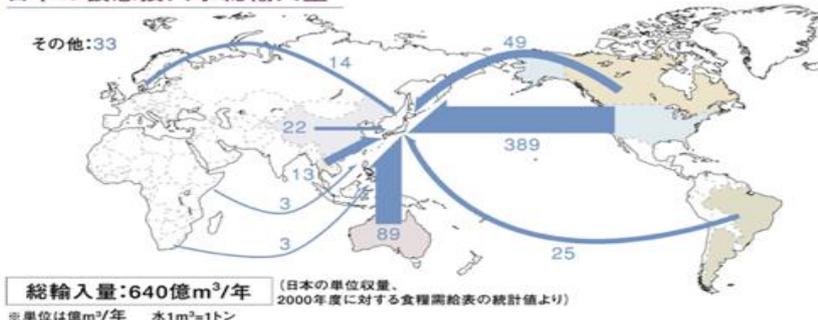
6月23日(金)国際部裁量の「総合的な学習の時間」で1・2学年は**バーチャルウォーター**についての授業を行いました。今年度の「総合的な学習の時間」のテーマが「水」と「共生」ということで、4月より安積疎水やシンガポールのニューウォーターについて学んできました。また、20日には水ジャーナリストの橋本淳司氏をお招きし、世界の水事情についての講演会がありました。そのまとめとして、**日本がどのように他の国々の水に関わっているか**について、疑似体験を通しながら学びました。

授業は各クラスで分かれ、それぞれの担当教員が進行役となり2時間にわたって行われました。

- ① 8グループに分かれ疑似家族を作りました。まず水が付く苗字を考えました。
- ② 次に、ハンバーグ・かつ丼・チキンカレーの中から一つ選び、完成するまでにどのくらいの水が使われるのか話し合いました。(生徒の予想は10リットルくらいでした・・・)
- ③ 実際に使われる水の量を発表し(ハンバーグで2000リットル以上)、なぜこんなに使われるのか、牛肉がなぜ一番水が使われるのかについて考えました。
(答え→牛のえさとなる穀物にも水が使われているため・牛は飼育期間が長い)
- ④ 次に、どの国から最も牛肉・豚肉・鶏肉・トウモロコシなどが輸入されているかについて考えました。さらに、食物を通してどの国から日本は水を最も多く輸入しているかについて考えました。
(答え→1位 アメリカ 2位 オーストラリア 3位 カナダ)



日本の仮想投入水総輸入量



- ⑤ 水が豊かなはずの日本が、いかに外国から水を輸入しているのかを知ったのち、水問題を抱える各国の人たちについて学びました。
- ⑥ まとめとして、「今の私の気持ち」と「水を大切に使うコツ」をまとめました。「コツ」については学校内に掲示しました。

講演会や数回の理解講座をとおして、もっとも身近にある「水」について、深く学ぶことができました。外国の水事情だけではなく、私たちが使用している水がどこから来ているのか、外国の水問題が私たちの食生活に深く関わっているかについて知ることができ、改めて日頃何気なく使っている「水」について、考える機会となりました。

バーチャルウォーターについての詳しい内容については、環境省のホームページをご覧ください。

https://www.env.go.jp/water/virtual_water/

